

平成17年度

夏期研修会

# 手軽に動画編集

~WINDOWS MOVIE MAKERを使ったビデオの編集~

日 時 平成17年7月26日(火)

10:00~15:00

会 場 七飯町立藤城小学校

講 師 佐々木 朗

渡島視聴覚教育研究会

## 1. はじめに

8ミリフィルムの撮影から数えると動画編集は長い歴史を持っています。その昔は、はさみでテープを切り、上手に貼りあわせるのが技術でした。その後、メディアはビデオテープになり、動画編集も2台のデッキにより、頭出しをしながら、画像を切り替えていきました。フィルムを直接はさみで切るのとは異なり、やり直しは効くものの、テープの巻き戻しや早送り、コマ送りなど、その技術は深く、日夜を忘れて編集に勤しんだ方もいらっしやるかと思います。

近年、マルチメディアという言葉が一般的に通るようになり、その中心となったパソコンは何でもできるまさにマルチのメディアに対して処理できる存在となりました。動画編集もその一つで、ウィンドウズに無料で付属している WINDOWS MOVIE MAKER(VER.2)を使うことにより、画像編集も素人でもできる位簡単なものになりました。

すばらしい作品を作るためには、すばらしい素材(テープを回してビデオカメラでとった直接の画像)はもちろんのこと、かなり奥深い画像編集のノウハウが必要なことは言うまでもありません。けれども、今回のソフトのちょっとした技巧を組み合わせるだけで、一見すばらしい作品ができてしまうのです。

授業や参観日でビデオを見せる時、編集して見せる先生はたぶん少ないでしょう。おそらく、ビデオの頭出しをして、要所要所早送りをしながら親や子どもたちに見せていることでしょう。ところが、ビデオ編集を覚えると、撮ったものはいつでも短い時間にコンパクトにまとめておくことができるので、限られた時間で提示する授業や参観日などでは非常に効果的であります。また、パソコンに保存できるということもあって、動画が今までより気軽なものになることでしょう。

## 2. 使用するソフトウェアについて

### (1)動画編集ソフト～Windows Movie Maker 2

Windows XP が入ったパソコンであれば、標準で入っているソフトです。これが動く最低条件として、

- ・OS が Windows XP であること
- ・600MHz 以上のプロセッサであること
- ・128MHz 以上のメモリーがあること
- ・2GB 以上ハードディスクが空いていること

などです。さらに、音声や動画を取り込むためには、

- ・オーディオキャプチャデバイス
- ・DVまたはアナログビデオキャプチャデバイスが必要となります。



(2)動画再生ソフト～Windows Media Player」

バージョンは9が新しいですが、過去のバージョンでも再生は可能です。また、XP以外でも対応はしますが、最新の機能はXPのみで働くようになっています。

### 3. ビデオカメラについて

DVカメラであれば、大丈夫です。従来のアナログであれば、別にビデオキャプチャーというハードウェアを取り付ける必要があります。

私のデジタルビデオカメラは、

Victor GR-D250 で、市場価格は5万円程度です。スペックとしては、一番低い部類に入るのですが、実質、私にとっては何の不満もありません。このようにビデオカメラも一昔前に比べて、ずいぶん安くなってきましたので、デジカメと同様に一台手元においていいものかと思います。



最近のビデオカメラはほとんどデジタルで、DV(デジタルビデオ)端子があるのがほとんどです。パソコンと接続するにはケーブルが必要です。ケーブルはほとんどがオプションのようで、標準ではついてきません。4000円位もするので、ちょっと買おうかどうかと考えますが、そろえておきましょう。



テープは、コンビニなどでも入手することができます。MINI DV カセットといえば通じます。



## 4. 素材を取り込む

今回の講習では、予め素材(テープに撮影したそのままのもの)をパソコンに取り込んでありますが、通常は、カメラの画像をパソコンに取り込むという動作から始めます。

### (1)ケーブルの接続



デジタルビデオカメラとパソコンをDVケーブルでつなぎます。

### (2)ハードウェアの認識

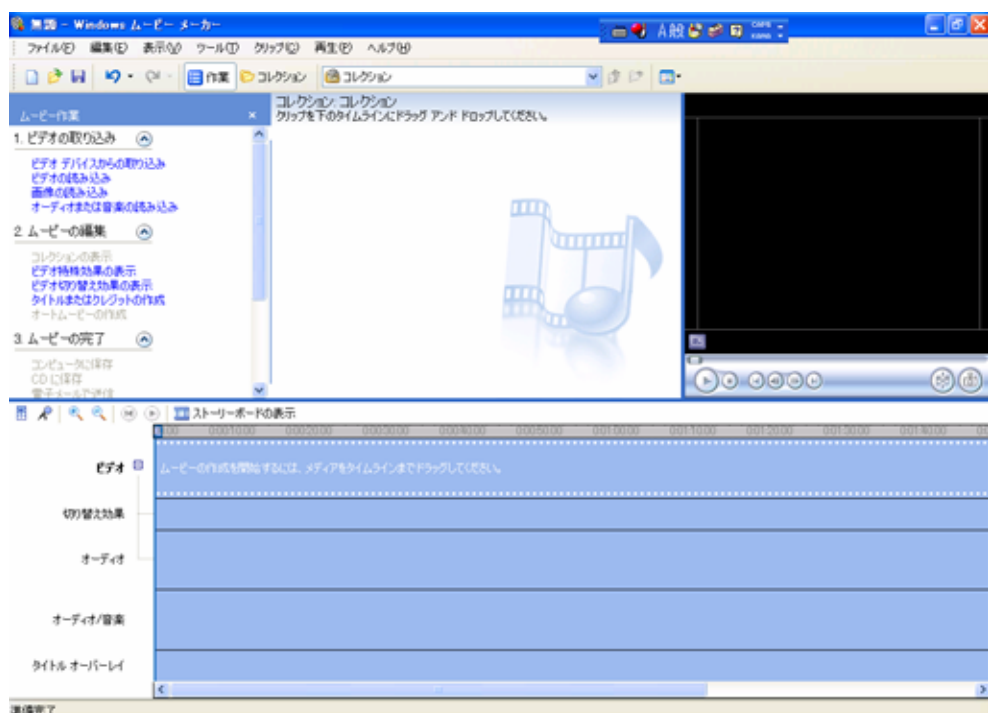
デジタルビデオカメラの電源を入れます(再生にするといいでしょう)。

すると、パソコンが「新しいハードウェアを認識しました。」とメッセージが出て、少したつと、「使用の準備ができました。」と出ます。



### (3)ムービーメーカーの立ち上げ

3. 次のような画面がでましたら、「ビデオの取り込み windows ムービーメーカー使用」をクリックします。出なければ、「スタート」「全てのプログラム」「windows ムービーメーカー」とクリックします。ムービーメーカーが立ち上がります。



#### (4)取り込み

ムービーメーカーが立ち上がりましたら、取り込み開始です。画面左の「ムービー作業」の「1. ビデオの取り込み」に「ビデオデバイスからの取り込み」がありますから、そこをクリックします。

するとビデオ取り込みウィザードが立ち上がります。最初は「取り込んだビデオファイル」です。「取り込んだビデオにつけるファイル名を入力する」では、「視聴覚講座練習用」などと適宜名前をつけてください。

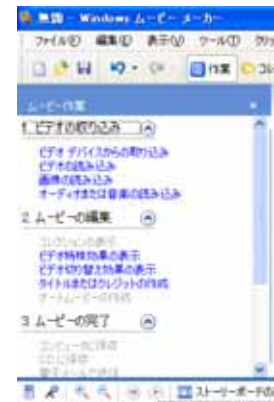
「取り込んだビデオを保存する場所を選択する。」では、「My Videos」が選択されていますので、そのままにしておきます。ここまでよろしければ「次へ」をクリックします。

「ビデオ設定」のウィザードに移ります。今回は、「コンピュータの最高の品質で再生」を選びます。この設定を変更することで、より画質を高く(ファイルの大きさが大きくなる)することもできますし、画質を低く(小さなファイルで済みます)することができます。コンピュータの最高の品質では、パソコンの画面いっぱいに近づいて見るには画質はかなり劣りますが、ほどほどの大きさで見るとは十分です。また、ファイルの大きさもそこそこになります。

「取り込み方法」のウィザードに移ります。ここでは、「テープ全体を自動で取り込む」を選択します。「テープの一部を取り込む」を選択すると、次の画面でコンピュータからテープの頭出しをして、それから取り込み開始です。

今回は自動なので、テープが巻き戻され自動的にコンピュータに読み込まれていきます。最後までいきましたら、「完了」をクリックしてください。

中央にコレクションが表示されます。「ビデオクリップ」といってクリップごとに出ますので、編集にとっても便利です。





## 5. 動画の編集の画面

### (1) 取り込み

取り込んだ画像は右図のようになります。

今回の講習ではあらかじめパソコンに取り込まれた画像を利用しますので、ここからスタートです。

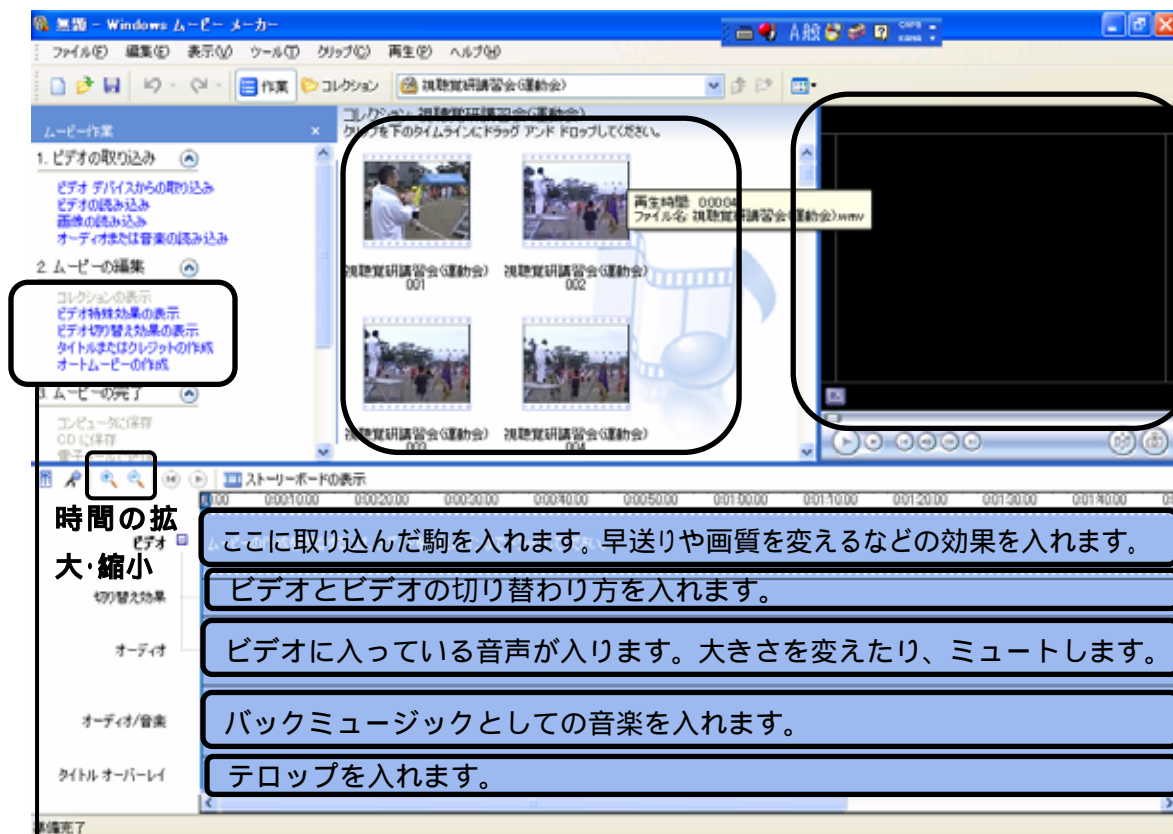
「ムービー作業」「ビデオの取り込み」「ビデオの読み込み」「視聴覚研講習会(運動会)」といきます。



### (2) ムービーメーカーの画面

下の表示のところを「タイムラン」にします。

下図の通りになるはずですが。



→ 今日の講座の中心になります。

「ビデオ特殊効果」は、早送りをしたり、スローモーションにしたり、モノクロにしたり、ぼやかしたり、古いフィルムみたいにしたりします。

「ビデオ切り替え効果」はクリップとクリップの移り変わり方です。しだいに移り変わっていくとか、めくれあがるように切り替わるとか、右から紙芝居のように切り替わるかなどの

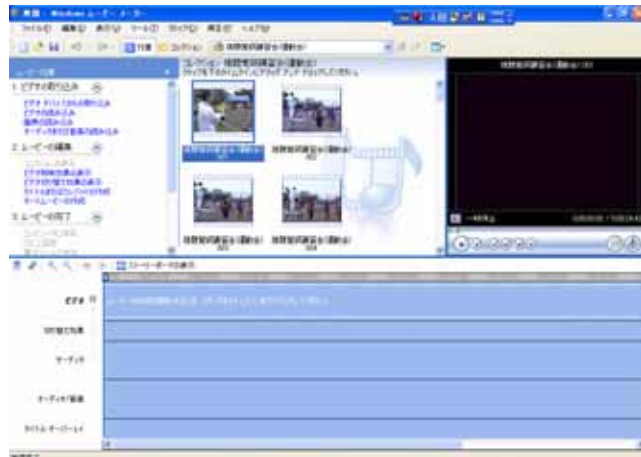
効果です。

「タイトルまたはクレジットの作成」は、作品の前にタイトルを入れたり、作品の最後に出演者を入れたり、画面にテロップを入れたりします。

また「時間の拡大・縮小」では、クリップの細かいところを編集する場合など、1秒の間隔を大きくして、微調整をします。

### (3)画像のプレビュー

コレクションから、見たい「クリップ」を選び、クリックします。そうすると右側の黒い画面に画像が出ます。ボタンで再生です。見る観点として、そのクリップの中に、使える場面があるのかないのか(撮影したのもので、使われないものがある、違う言い方をすると、捨てられるものがほとんど)、そして、使えるものがあつた場合、クリップのどの部分かをチェックします。



## 6. クリップを配置する

クリップを配置していきましょう。クリップの中から使いたいクリップを画面下の「タイムラン」の中のビデオにドラッグします。(ドラッグとは、つかみたいクリップのところをクリックし、そのままの状態、引っ張り、目的のところまで離すことです。)図のようになります。音声が入ったファイルなので、オーディオのところにも音声がかかります。

もう一つクリップを配置してみましよう。配置したいクリップを先ほどのクリップの隣にドラッグします。このように後ろにつけたしていくことも、配置されたクリップの前やクリップとクリップの間に挿入することもできます。さらに、配置したクリップをドラッグして順番を変えたり、右クリックして切り取り、



また削除したりすることもできます。

ここまで編集したクリップを見てみましょう。左向きの矢印をクリックすると、先頭に戻ります。また、タイムの上でクリックすると任意の場所に開始ポイントを設定することができます。右矢印をクリックすると、再生します。

## 7. クリップを編集する

クリップを編集していきましょう。いい作品を作るためには、必要なクリップを選択することと、さらにそのクリップの中で、ここぞと思うところだけを残して、他を大胆にカットしていくことが大切です。このようにカットしていくことを「トリミング」といいます。写真と同じですね。ただし、後でやるビデオ切り替え効果の時に、いわゆる「のし代」が必要になりますので、若干余裕を持って編集していきましょう。

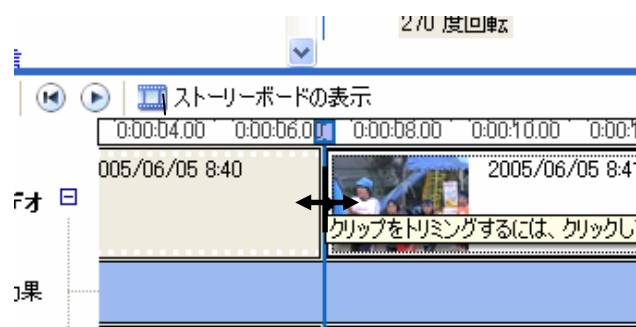
まず、タイムランの拡大をします。2度ほど「+」をクリックすると、右のように時間軸が拡大されます。

さらに+をクリックするとさらに拡大されます。上のタイムを見ながら、適宜拡大、縮小を使いましょう。



青組が入場しているクリップを編集してみます。再生してみるとわかるのですが、途中でカメラがぶれて地面だけ写っています。(実はデジカメとビデオと両手で撮影していたのでこんなことになります)そこをカットしてみましょう。

該当クリップを選択し、その先頭部分にマウスを当てます。すると図のような赤矢印がでます。そこでドラッグしながら、右へ振っていきます。画面には振った時点の画像がでますので、それを見ながら、必要なところまでカットし、ドラッグを終了



します。これで前からのカットができます。後ろからカットする場合には、該当クリップの選択し、最後の部分にマウスをあて、左へドラッグしてカットしていきます。

細かいところを編集する場合は、時間軸を拡大して下さい。また、一つのクリックに複数箇所を選択したい場合は、タイムランに同じクリップを何度かドラッグして、それぞれ必要なところをトリミングすることになります。地道な作業ですが、この編集作業で作品の成否が大きくかわります。私は9秒ぐらいに縮めました。



## 8. クリップに特殊効果をつける。

「ムービーの編集」「ビデオ特殊効果の表示」とクリックします。効果をつけるというのは、選択したクリップに、「倍速にする」、「スローにする」、「回転させる」、「モザイクをかける」、「モノトーンにしたり、色をかえたりする」などをするものです。これは「スローにして、モザイクをかける」など複数の効果を合わせてつけることができます。ちなみに私はあまり使ったことがありません。



それでは試してみましょう。図のような画面になりますので、試したい特殊効果をクリックして選択し、右側の画面の再生ボタンをクリックします。

実際の画面に特殊効果をつけてみましょう。追加したい効果を選択し、その効果を付けるクリックヘドラッグします。一つのクリップに複数の効果をつけたければ、更に効果を選択し、クリップヘドラッグします。効果のついたクリップには、図のようにマークが付きま



つけた効果を削除したり、また、追加したりするには、加除するクリップを右クリックし、サブウィンドウからビデオ特殊効果をクリックします。すると図のような画面になりますので、左から選んで追加、また右側にあるすでに追加されている効果を選択し、削除することができます。



いろいろ試してみてください。

## 9. ビデオの切り替え効果をつける

「ムービーの編集」「ビデオ切り替え効果の表示」とクリックします。この効果をつけない場合は、クリップからクリップへは、いきなり変わりますが、この切り替え効果をつけると、クリップから次のクリップに移る時に、「ゆっくり自然に切り替わる。」、「左から次の画面が入ってくる」、「真ん中から丸く



なりながら広がってくる」などの切り替えわり方を変えるものです。また、切り替えに要する時間も変えることができるので、すばやく変えたり(と言ってもあまり速いと効果がわかりませんが)、逆に2秒ぐらいかけてゆっくり効果を演じたりすることができます。これも、使いようで、あれこれ使うと見苦しくなります。

それでは試してみましょう。図のような画面になりますので、試したい切り替え効果をクリックして選択し、右側の画面の再生ボタンをクリックします。実際の画面に切り替え効果をつけてみましょう。



次にクリップとクリップを重ねる作業をします。重ねた後に切り替わるクリップを選択(クリック)します。



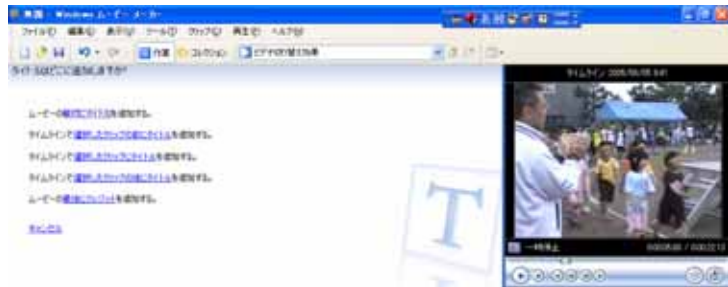
マウスポインタが手の形になります。そのまま左隣の画像にドラッグして重ねます。効果の追加したい効果を選択し、その効果を付けるクリックへドラッグ

します。マウスを離すと図のように一部重なりました。「フェ…」と見えますが、初期設定は「フェード」つまり、自然に全体が切り替わるものです。普段使うとしたらこれが一番自然だと思います。意図的に効果を変える場合は、ビデオ切り替え効果のたくさんある中から、選択して、今「フェード」となっている切り替え効果のタイムランにドラッグしてください。

尚、切り替え効果を削除するためには、クリップ同士が重なっているところを切り離します。切り替えの時間及び効果はコピーもできます。同じパターンで切り替わるときに便利です。作品を作る場合、ここまでの作業に大部分の時間を使うことになります。

## 10. タイトル、クレジットの挿入

「ムービーの編集」「タイトルまたはクレジットの作成」とクリックします。ここでは、作品の最初にタイトル、そしてサブタイトルをつけます。また作品中に必要なに応じて、説明などのテロップをつけていきます。



最初に作品の最初にタイトルをつけましょう。

「ムービーの最初にタイトルを追加する」を選択します。

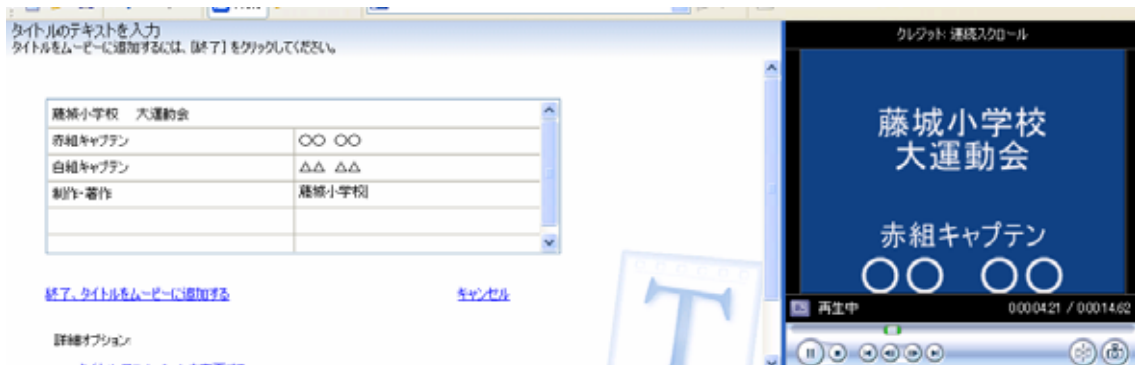


上の欄に「大運動会」と入力し、「フォントと色を変更する」をクリックし、少し字を大きくします。それから「藤城小学校」と入力します。上下の文字がくっついているので、大運動会のところで、何回かエンターキーを押して整えます。文字のフォントや色、画面の出方を変えることもできますが、初期状態のままが一番いいようです。



できたら、「終了、タイトルをムービーに追加する」をクリックします。作品に入れることができました。これも編集で長さを変えることができますが、初期状態の3秒程度が一番いいようです。

次に作品の最後にクレジットを入れましょう。「ムービーの最後にクレジットを追加する。」を選択します。これは映画の最後に出演者や監督などローリングしながら出るも



のです。このソフトでも、下から上に入力したものがでできます。ここでは、前ページのように、「藤城小学校大運動会」「赤組キャプテン」「名前」、「白組キャプテン」「名前」、「制作・著作」「藤城小学校」と入れてみました。できましたら、「終了、タイトルをムービーに追加する」をクリックします。ここでも長さを調整できます。ただし、長さを短くするとロールの速度が速くなるので、注意が必要です。

最後にテロップを入れましょう。最初の入場画面に「選手入場」と入れましょう。まず、入場画面のクリップを選択し、「タイムランで選択したクリップにタイトルを入れる」をクリックします。タイトルのテキスト



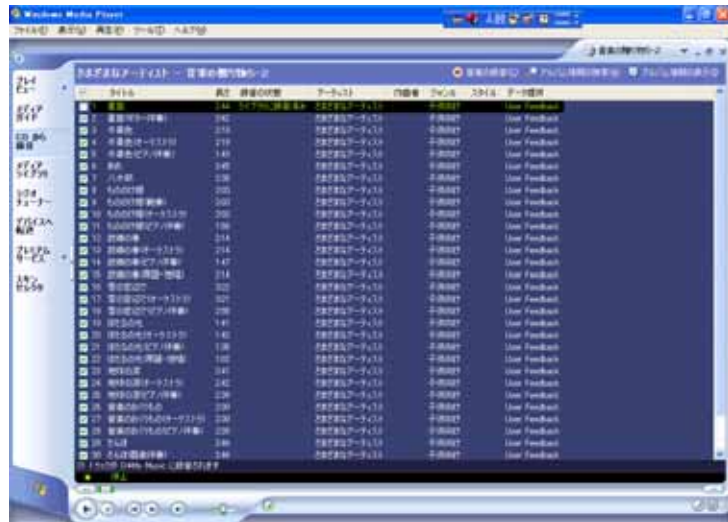
のところに「選手入場」と入れます。また、「タイトルアニメーションを変更する。」をクリックして、タイトル1行の中のサブタイトルを選びます。これでタイムランの一番下のタイトルオーバーレイのところにタイトルが入りました。このタイトルは選択して手のマークになった時は、左右に移動できます。また、クリップの編集でやりました、カットそして、引き伸ばしもできます。



## 11. 音楽を取り込み

最後のクレジットに音楽を入れてみましょう。

ここでは、CDにある音楽をWindows Media プレーヤーを使ってコンピュータに読み込ませ、それをムービーマーカーに乗せるものです。これは直接ムービーマーカーがCDの音楽を取り込むことができないため、間接的にWindows Media プレーヤーを使うというものです。先ほどのムービーマーカーは最小化しておきましょう。



まず、Windows Media プレーヤーを立ち上げましょう。スタート、プログラムで出てくるはずですが、順を追って説明しましょう。

1. Windows Media プレーヤーの立ち上げ
2. CD から録音
3. CDを入れる
4. 該当する曲にチェックを入れる。
5. 音楽の録音

これで、CDに読み込まれます。あとは、CDを取り出して、プレーヤーを閉じていいです。



再び、ムービーマーカーを最大化します。

1. ビデオの取り込み、オーディオまたは音楽の取り込み マイミュージックが開きます。
2. そこに該当のCDの名前等がでできます(手作りの場合、アーティスト情報なしと出る場合があります)
3. 必要なファイルを選び、「読み込み」をクリックします。

最終的に図のような音楽記号が現れ、音楽の取り込みの準備ができました。



4. 音楽のアイコンを「タイムライン」の「オーディオ / 音楽」の最後のクレジットの下あたりにドラッグします。音楽は通常何分かありますので、先ほどのクリップの編集の要領で、前後をカットします。私がやる時は、最後のクレジットの場合は、音楽の最後とクレジットの最後が同じになるように、前半部分を大幅にカットします。



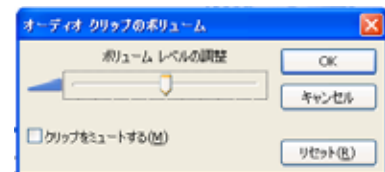
## 12. オーディオレベルを変える

通常撮影する時は音の大きさの調整は自動かと思えます。ムービーメーカーでは、音の大きさをsh同で調整することができます。細かい振幅になっているのが音なのですが、上下の壁にくっつく以上だと音がひずみ、振幅がほとんどない場合、無音に近い状態になります。その調整をやってみましょう。



調整しようとするオーディオ

または、先ほどの音楽のところ、右クリック、ボリュームをクリックします。図のように「ボリュームレベルの調整」でレベルをドラッグしながら左右に振ります。ほんの少し上げても結構レベルは上がります。また、右クリックした時に、ミュート(音を全く消す)、フェードイン、フェードアウトもできます。音を消して、そこに音楽を入れるなどの効果も使うことができます。



## 13. 保存

保存は2つに分けて考えます。

### (1) プロジェクトの保存

プロジェクトの保存は、切り替え効果やクリップの編集状況、オーディオのレベルなど、作業の工程を保存するものです。したがって、プロジェクトを保存しておく、出来上がった作品の間違いを訂正したり、一部を作り変えたりすることができます。

ファイル 名前をつけてプロジェクトを保存 「視聴覚講習会」(任意)をつけて保存

します。

2つのビデオデッキを並べて編集していた時代にはできなかったことですね。

## (2)ムービーの保存

これはでき上がった作品を一つのファイルにしてしまうことです。そのファイルはウィンドウズメディアプレーヤーがあれば誰でも見ることができます。

ムービー作業 ムービーの完了 コンピュータに保存 視聴覚研究講習会(任意)を入力。次へ

ムービーの設定 コンピュータの最高の品質で再生。次へ。

ムービーの保存には、何分か時間がかかります。

尚、取り込みや保存ではいろいろ画質を調整することができます。今回の作品は見てただけのように、大きな画面にするとけっこう粗いものがあります。もっともっと、きれいに編集することもできますが、コンピュータのハードディスクの容量が、もっともっと必要になります。ですから、必要な大きさに編集を行うことが大切です。

## 14.最後に

このように基本操作は、他のアプリケーションソフトに比べると、とても少ないです。しかしながら、見栄えのある作品を作るためには、いい素材もそうですが、それなりの編集のノウハウも必要になってきます。また、最初は一つの作品を作るのに何日もかかるかもしれませんが、しだいに短い時間で作れるようになります。

さらに、先生方が苦勞して作られた財産は、ファイルとして扱うことができますから、メディアなどで受け渡しをしたり、インターネット上で公開したりすることもできます。使い次第で広がってきますね。

